

事業の様子（写真報告）

◇2013年9月25～27日 第1回渡航

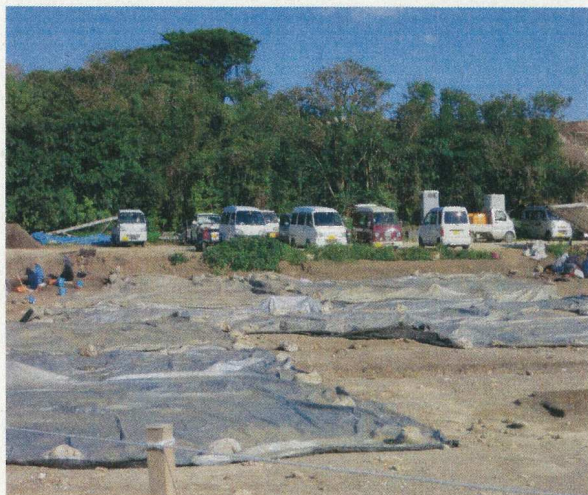


鹿児島県立喜界高等学校を訪問。7月に実施した「喜界島の地域振興と高校生の離島に関する調査」への協力に対するお礼と、報告書の受け渡し及び説明を行った。また、「喜界島みらい会議」開催へ向け、引き続きご協力をいただけるようお願いした。



「喜界島の地域振興と高校生の離島に関する調査」で興味深い意見を書いていた生徒数名を対象として、個別の聞き取り調査を実施。量的調査ではわからない実態を探るための質的調査であった。

◇2013年12月3～4日 第2回渡航



手久津久（てくつく）集落にある「巨大ガジュマル」周辺の畑地帯総合整備事業に関する取材。ここでは、工事により出土した文化財発掘の作業を行っていた。文化財保護と産業振興の価値衡量を行う上での問題提起に有意義な、実に示唆に富む場所である。



同「巨大ガジュマル」と畑の距離との間の距離を実際に計測したところ、最も距離が短いところで約 12メートルであった。農薬飛散により量的に問題とされる距離を十分にとっていないことが判明し、農薬飛散によりガジュマルが枯れる可能性があるという主張における確証を得ることができた。



喜界島農業の主要品目であるサトウキビの製糖過程と6次産業化に関する取材。喜界島で生産されるサトウキビはザラメにすることで補助金を得るケースが多いが、取材した「喜界島工房」では、サトウキビの特別栽培にこだわり、黒蜜等への加工、販売を行っている。TPP に参加しても生き残る農家とはどういうものか、喜界島の農業の今後求められる姿とは何かということについて有益な情報を得た。

◇2013年12月18～19日 第3回渡航



「喜界島みらい会議」を開催。喜界高校全校生徒 187 名、地元住民代表 9 名、大学生 2 名、大学教員 2 名から成る世代と立場を超えた意見交換の場となった。町内で宣伝チラシを見た一般の方も 10 名ほどいらっしやった。